

高木仁三郎市民科学基金 助成研究/研修 完了報告書

提出日： 2008年 5月 4日

1. 氏名・グループ名及び研究テーマ

氏名(グループ名)	日和佐 綾子
連絡先・所属など	ayakohiwasa@gmail.com
調査研究・研修のテーマ	(決定時のテーマ：カンボジアにおけるジェンダーと開発) 変更後：カンボジア農村社会における女性のエンパワーメントのプロセスと成果

2. 調査研究・研修結果の概要

この調査研究は、カンボジアにおける女性のエンパワーメントについて、タケオ州における小規模農民生活向上プロジェクトの中で活躍する女性に焦点をあて、彼女たちに可能だったエンパワーメントがどのように起こったのか、またその成果の波及効果はどうかという点をエスノグラフィックの手法を用いて、当時者の観点から研究することを目的としている。

カンボジア、特に農村社会では、現在でも伝統習慣のなかで継がれてきた男女の行動規範が、人々の日常生活のなかに浸透している。その行動規範やイデオロギーは変化しながらもカンボジア人としての主体性を構成している。カンボジアで女性のエンパワーメントを考察するにあたり、カンボジアの文脈の中でジェンダー観とジェンダーの関係性を理解し、女性にとってエンパワーするということがどういう状態を示すのか議論する必要がある。この調査は、活発に活躍する女性リーダーと女性組合の取り組みをケーススタディとして、彼らが女性組合の活動が始まる以前と現在を比べてどのような変化があったか、またそれに伴うジェンダー観の移り変わりを分析した。

調査は5月中旬に開始。カンボジアの首都であるプノンペン市にて、文献調査やクメール語(カンボジア語)の研修を受けながら農村調査の準備をし、6月中旬より農村調査を開始。プノンペン市から車で約2時間の4つの村で活動を開始した。研究対象の農家でホームステイをしながら参与観察、聞き取り調査を実施。主な活動は、農村組合・女性組合の月例ミーティングへの参加、研究の焦点をあてている女性リーダーが参加する活動への同伴・活動観察、女性組合のメンバーを対象にしたワークショップ実施、関係者・女性組合のメンバー・メンバーの夫等との個人インタビュー実施であった。

以上のような手法で得られた情報はフィールドノート、音声、写真等の形式で記録。分析は、インタビューやスピーチ、発言等に含まれる当事者の言説を丁寧に翻訳し、語りの中に出てきた考え方や表現の変化を抽出し、変化の過程とその要因を考察した。組合活動のセービング()、農業技術指導(稲作、家庭菜園、家畜の飼育等)などを通じて、家計を担う女性の主婦としての役割が向上し、家計にいっそう貢献するようになった。その結果として、1)女性の活動範囲が地域社会へ広がった、2)情報へのアクセスが高まった、3)女性たちの自信が高まった、4)男性側の女性活動に対する支持が得られた、等々の変化が抽出された。女性たちが認識する変化は個人によって異なるが、男女両方が女性組合の活動の有益性にたいして共有認識を持っている。また、女性の状況を活動以前と現在で比較する質問に対し、男女両方より、伝統的なイデオロギーを比喩的に用いて変化を表現する発言が多々あった。そのイデオロギーは女性の役割を家庭内にとどめ、女性を見

下すような意味合いで以前の状況を比喻し、現在はそうではないのだという説明であった。エンパワメントは内面化された抑圧にたいし、女性自身がその抑圧を認識し、挑戦することによって変化をもたらすことに重点をおいているため、このような発言が多くみつけられることは重要な意味合いをもっている。

このように、人々の経験を詳細に研究することによって得られた理解は、これからのコミュニティ開発の参考になる可能性を含んでいる。この研究を通じて、ジェンダーの観点より議論され分析された人々の経験が文章化されることによって、どのような介入が女性のエンパワメントを試みるにあたり効果的で有効であるかという仮説が考察された。外部者の視点や介入によって、関係当事者にとっては認識しがたい変化を論じることは有意義であったといえる。

セービング：女性組合では、組合員が毎月一定の額を組合内で集団貯金しています。

納められたお金は、組合員がお金が必要な時に低金利で貸し付けを受けられるようになっています。金利で得られた利益は組合内に貯められ、最終的には組合員に分配されます。

3 . 調査研究・研修の経過

2007年

- ・5月：カンボジア入り
 - ・ 言語研修
 - ・ 通訳者探し・フィールドワーク準備
 - ・ 文献調査
- ・6 9月：農村でのフィールドワーク開始
 - ・ 参与観察
 - ・ インタビュー
 - ・ フォーカスグループワークショップ実施
- ・10月：情報収集終了
 - ・ データの翻訳（クメール語から英語）
- ・11・12月：データの翻訳（クメール語から英語）、分析、執筆。

2008年

- ・1月：修士論文として調査結果を提出。
- ・2月：
 - ・ JICAカンボジア事務所で調査結果の発表。
 - ・ Oxfam Americaで調査結果の発表。
- ・3月：
女性リーダーたちとのワークショップ企画・実施調整。協力団体の都合上延期。

4 . 調査研究・研修の成果

エスノグラフィーの手法で得られた情報は、丁寧に翻訳され、言説に重点をおき分析された。語りの中に出てきた考え方や表現の変化を抽出し、変化の過程とその要因を組み立てていく過程で女性組合の活動が女性たち・地域社会にもたらした変化が明らかになった。組合活動のセービング、農業技術指導（稲作、家庭菜園、家畜の飼育等）などを通じて、家計を担う女性の主婦としての役割が向上し、家計にいつそう貢献するようになった。その結果として、1) 女性の活動範囲が地域社会へ広がった、2) 情報へのアクセスが高まった、3) 女性たちの自信が高まった、4) 男性側の女性活動に対する支持が得られた等々の変化が抽出された。

女性たちが認識する変化は個人によって異なるが、男女両方が女性組合の活動の有益性にたいして共有認識を持っている。また、女性の状況を活動以前と現在で比較する質問に対し、男女両方より、伝統的なイデオロギーを比喩的に用いて変化を表現する発言が多々あった。そのイデオロギーは女性の役割を家庭内にとどめ、女性を見下すような意味合いで以前の状況を比喩し、現在はそうではないのだという説明であった。エンパワーメントは内面化された抑圧にたいし、女性自身がその抑圧を認識し、挑戦することによって変化をもたらすことに重点をおいているため、このような発言が多くみうけられることは重要な意味合いをもっている。

こうして得られた情報は、今後女性のエンパワーメントを目的とする草の根の活動に対し参考となる具体例として共有され、議論された。このような詳細な研究やアセスメントは長期にわたる取り組みが必要とされ費用がかかるため、重要性は認識されてはいるがあまり実施されていないのが現実である。今回の調査で得られた成果はカンボジア国内の関係者と共有され、今後のエンパワーメントのための活動に参考とされることが期待されている。

5. 対外的な発表実績

- ・ JICAカンボジア事務所での発表
参加者：JICA関係者、国際NGOスタッフ、コンサルタント、学生
- ・ Oxfam Americaカンボジア事務所での発表
参加者：Oxfam Americaカンボジア事務所が取り仕切っているSaving For Self-helpの活動関係者（国際・国内NGO関係者、専門家）

6. 今後の展望

- ・ 調査研究の対象となった女性リーダーと関係者の人を対象に結果報告を含めたワークショップを実施予定。調査協力団体との日程調整中。
- ・ カンボジア現地の調査機関やNGO等から最終研究成果の報告書提出を要望されている。
- ・ フェミニスト・エスノグラファーの大学教授から、教授が出版を計画している女性のエンパワーメントに関する本に、調査成果をケーススタディとしてまとめて参画する予定。
- ・ 会議での発表、又はジャーナルへの投稿を予定。

今後、カンボジアでの開発、又は他の国で人々のエンパワーメントに関わっていくにあたり、この調査研究で得られた経験は大変有意義である。

高木基金へのご意見

高木基金から助成金なしでは昨年度の研究は実施可能ではありませんでした。柔軟な対応とシンプルな資料提供は、学生の私にとっても負担を感じない機会でした。毎回文章の提出が遅れたり、文章に至らないことが多々あったりするなど、ご辛抱の対応、ありがとうございます。

今後、この助成金で可能だった研究成果が今後の協力開発のプロセスの中で人々の役に立つよう、継続的に努力をしていきたいと思っています。

ありがとうございました。

7. 完了報告 英文概要

Recipient Name	HIWASA Ayako
Belonging / Contact Address < 公表可能な問い合わせ先・ メールアドレスなど >	ayakohiwasa@gmail.com
Theme of Research/Training	The Process and Outcomes of Women ' s Empowerment in Rural Cambodia
Name of the Organization Providing Training < 研修の該当者のみ >	

< 以下の空欄に前記 2 . に対応する内容を英文で記載して下さい。 >

This study aims to provide an ethnographic account of the experiences of the women and the community in livelihood improvement projects in Takeo province, Cambodia. It explores the concept of women's empowerment through the analysis of the 'process' of its respective 'changes' that taken place in the course of women's participation in and emergence of, women's community-based organizations.

In Cambodia, particularly in rural society, traditionally practiced code of conduct of men and women are prevailed in current everyday life yet. This code of conduct and the ideology has changed itself with social change and forms the identity of Cambodian. It is important to discuss what empowerment means for women based on understanding of gender perspective and gender relation in Cambodian context. This research analyzes the changes comparing before women's group activities started and current situation and transition of gender perspective by focusing on active women leaders and women's community based organizations as case studies.

Fieldwork began in middle of May. Preparation of undertaking fieldwork in rural area, including Khmer language training and literature review were carried out in Phnom Penh, the capital city of Cambodia. Fieldwork in rural area was begun in June. The activities were located at 4 villages, 2 hours drive from Phnom Penh. While home-staying at families of the study targets, participant observation, including participation to the women's group and farmer association's activities, conducting focus group workshop, individual interviews with stakeholders and any other activities that enable the research to build rapport with the villagers, was carried out.

Primary data obtained from those methods were recorded in forms of field note, recorded voice, and photos. The data was transcribed and translated in details in order to analyze the narrative retrieved from sayings, interviews and speeches. The extracted perspectives and expressions were sorted and organized to understand the elements and the process of the changes, which emerged in the narratives. Through the activities of the women's group, such as saving, agricultural technical supports (rice cultivation, home gardening, animal husbandry, and so forth), women's role as housewives were strengthen and enabled women to contribute more in livelihood. As a result, the changes such as 1) the extent of women's activities expanded from only within household to the society, 2) increased access to information, 3) enhanced confidence, 4) obtained male's support to women's activities and so forth, were extracted from the data. Although there are differences in consciousness of each individual, there are common recognitions among both men and women about the benefits of the activities of women's group. Moreover, the answers to the question

comparing the situation of women before the activities started and the current situation, there were some sayings provided by both men and women using the traditional ideology as a symbol to describe the changes. That ideology symbolizes the previous situation by using this saying which used to hinder women's role only within household and undervalued women. And it compares current situation by saying that it is not like that right now. It has very significant meaning as *empowerment* emphasizes the importance of women recognize internalized oppression and challenge it to bring changes into their lives.

By studying people's experiences in details, understanding that could be obtained from this kind of study has great potential to provide relevant reference to community development. Through this study, it was possible to seek the hypothesis of effective intervention for women's empowerment by analyzing women's experience from gender perspective and putting into writing. Outsider's view or intervention enables to discuss the changes which are not recognized by the stakeholder concerned.

<以上です。ご協力ありがとうございました。>